

令和7年度第3回学校運営協議会報告

県立浜松特別支援学校

1 日時 令和8年2月26日(木) 午前10時から正午まで

2 出席者

(1) 委員

- 特定非営利活動法人 ぐらしえん・しごとえん 代表理事 鈴木 修
- 五島地区自治会連合会 会長 鈴木美佐男
- PTA会長 渥美 祥子
- 浜松学院大学現代コミュニケーション学部教授 笹原 康夫
- ㈱日本マクドナルドフランチャイジー 株式会社フロム東海 代表取締役 山田 晴茂
- 南障がい者相談支援センター センター長 大場 拓弥
- 浜松市防災学習センター センター長 藤田 具克

(2) 教職員

校長、副校長、教頭、事務長、小学部主事、中学部主事、高等部主事、教務課長、進路支援課長、情報教育課長、CS担当

3 報告

(1) 令和7年度学校経営報告、保護者アンケート結果報告、コンプライアンス委員会活動報告

(2) 令和8年度学校経営計画説明・承認

(3) 質疑応答

ア 人権を守る意識と行動力の向上について

- ・感情に頼らない指導の徹底: ある委員から「マクドナルドではポテトの作り方を指導する際、感情をぶつけるのではなく『行動』に対して指導する」という例が挙げられた。学校現場でも、人格を否定せず、教育的効果を考えた毅然とした指導が重要であると確認された。
- ・教員のゆとりと相談体制: 「先生にゆとりがないと指導に影響する」との指摘があり、教員自身がカウンセリングを受けられる仕組みや、有給休暇(家庭の日など)を気兼ねなく活用できる環境づくりが提案された。
- ・同僚性の向上: 威圧的な言動等、気になる関わりが見られた際、その場で仲間同士が「少し気になることがある。」と伝え合い、すぐに対応策を考えられるような組織を目指す。

イ センターの機能の充実について

- ・生徒の実態把握と支援のつなぎ方: 高等学校への巡回相談を深める中で、生徒の実態をどのように把握するか、また把握した相談をどのように適切な支援へつなげていくかといった点が課題として見えてきている。
- ・小中学校における相談の掘り起こし: 高校では生徒理解の意識が高まり、相談が増えているが、逆に小中学校では減少傾向にある。これは「相談してよいことを知らない」ということもあるようで改めて呼び掛ける。
- ・通信制高校との関連: 近年ニーズが高まっている通信制高校について、高卒資格の取得が優先され「教える内容」が疎かになっていないかという懸念や、小中学校の相談減少との関連性を注視していく。

ウ 倫理観の向上と働き方改革の推進について

- ・健全な告発文化の醸成：企業の事例として「アルバイトでも声を上げられる組織が抑止力になる」という意見が出された。告発した人が守られるという仕組みづくりの重要性とその具体例が紹介された。
- ・外部通報の検討：校長に直接言いにくい事案を想定し、匿名性を担保できる外部通報制度の活用も、倫理観維持のための有効な手段として提案された。
- ・AI活用の可能性：民間企業では会議記録などにAIを活用して効率化を図っている例が紹介された。AIの怖さもある中で、教育現場でどのようにAIを活用するかについて今後も考えていくことが必要である。

エ 地域とのつながり

- ・顔の見える交流：児童公園の清掃活動などを通じ、単独で活動するのではなく例えば「地域の氏子総代と一緒に取り組む」ことで、より地域からの理解と応援を得やすくなる。
- ・情報の積極発信：SNSだけでなく、地域で回覧されている「応援隊新聞」などを通じ、学校の取り組みをさらに可視化していくことが望ましい。

オ 学校評価について

- ・評価基準の見直し：多くの項目が「A評価」である現状に対し、目標達成に向けて取り組む素晴らしい教員集団である。さらなる向上を目指してC評価を恐れない目標設定を検討していくことも大切である。

(4) 熟議（各グループの報告より）

ア 学習・防災応援隊グループ

- ・成果：「江之島クリーン作戦」では、PTAや外部団体との「顔の見える交流」が実現した。マスコミ（新聞・ラジオ）でも取り上げられ、活動の輪が着実に広がっている。
- ・次年度への展望：募集地域の拡大を図ることができ、参加者も増えたからこそ、今後は「継続できるシステムづくり」に取り組む。
例：・連絡手段のスムーズ化（メール活用）や行事化の検討。
・「活動の質の向上」を目指し、専門性を持つ地域の方（退職校長会など）に、書初めや器械運動などの授業サポートに入ってもらいたい。
・大切にしたいこと：「参加した方の満足感」こそが、活動を長く続けていくために重要。

イ 進路・福祉応援隊グループ

- ・実習評価表について、令和6年度は評価表づくり、令和7年度は浜松・湖西地区の特別支援学校での書式統一、そして学校運営協議会でブラッシュアップをした。令和8年度に向けて、記入する側の心理的負荷を考慮した質問内容や、保護者への開示の在り方について話題となった。採用に関する質問内容を見直す、企業に開示の可否をゆだねる一文を添えるなどの対応をし、より一層、実習評価表を活用できるよう進めていく。
- ・外部機関と連携した進路相談の仕組みづくりについて、職業レディネス・テスト等で興味関心を、一般職業適性検査等でできることや分かることを整理している。令和8年度は、教員自身がやってみて、検査を受ける負荷を実際に感じる機会の設定や、指標の見方、使い方、生かし方を整理していく。客観的に捉えられるように、アセスメントの部分や教職員福祉や進路に関する研修会について、令和8年度も依頼、調整していく。

4 連絡

令和8年度第1回学校運営協議会 令和8年6月1日（月）午前10時から正午まで